

## クラブミーティングの成果について

### 全国ライダークラブミーティング

これまで6回のミーティングが開催され、各クラブの代表者同士が忌憚のない意見交換を行ってきました。途中、ライダー事故が全国で多発し、議論が事故対策のみに終始せざるを得ない時もありましたが、それも含め全国のライダークラブ間の連携が深まったと感じています。

以下、これまでのクラブミーティングを通して得てきた成果について、ご紹介させていただきます。

#### 1. 各種委員会の発足について

JSA内の各種委員会発足のきっかけとなりました。

※安全委員会、インストラクターマニュアル委員会…JSAとの連動…クラブミーティングで出た課題はJSAの課題と共通するものも多い。

※クラブミーティングについては、敢えてJSAの委員会という位置付けはせず、自由な立場でJSAや滑空界、各クラブに貢献することを目指す。

#### 2. クラブ間の連携について

現在、20の団体が加盟し年1回のミーティングを行うとともに、クラブミーティングMLを通して情報の共有を行っています。また、クラブミーティングを通して、以下のクラブが他クラブから紹介された事例を元に制度導入を行いました。

(1) EMFT (Emergency Maneuver Flight Training) やスピンリカバリー等トレーニングの定期開催 (中航連・板倉→SATA、関宿へ開催地拡大)

※導入した実績：スピン事故防止への啓蒙に貢献

(2) ヒヤリハットレポートの導入 (板倉→SATA)

※導入した実績：1年を通して、意外とヒヤリハットが多いことが分かった。対策の仕組み化がより早くなった。

(3) HP/ブログの充実 (板倉→岡崎、遠州)

※導入した実績 1：FAQの中ではアクセス (滑空場への行き方) のページへのアクセスが最も多く、見学者に分かりやすい説明が必要であることがわかった。また、2018年1月のHPリニューアル及びFacebook ページ開設後は、1~2件/月のペースでコンスタントに問い合わせが来るようになった。(遠州)

※導入した実績 2：毎週の活動をブログで写真付きで掲載する事で、今まで以上に問い合わせが増えた。岡崎ブログでは、なるべくライダーがどんな活動なのかが伝わりやすい写真を選んで掲載している。今年、ブログ/HPを見て入会したという20代が3人おり、今後も継続して更新していく予定。(岡崎)

(4) ユース会員制度の創設 (葦崎→板倉、SATA)

※導入後2年間で、ユース・ジュニア会員が10名入会、クラブ員の平均年齢が59歳から56歳へと3歳若返った。ユース会員・ジュニア会員が12名、会員比率13%となり、総会員数も95名と前年比8名の増化となった (板倉)

(5) 各クラブ共通の課題を一緒に検討、解決

※集まっている各クラブの代表者はクラブ運営に頭を悩ましている。一人で、あるいはそのクラブ内

だけで頭を悩ませるのではなく、同じ悩みを持つ同じ立場の者同士が一堂に会し、課題解決に向けて話し合う場ができ、自分たちでその課題を解決していこうという意気込みを持つようになった。

### 3. 情報共有について

#### (1) 各クラブへの安全喚起（安全委員会を通じて）

※他航空機を含め、事故が連続して起こっている時にMLを通じて各クラブに注意喚起するとともに、他クラブで発生したインシデントを各クラブ間で共有。

#### (2) それぞれのクラブが持つノウハウや情報の相互活用

※酸素、ウィンチ曳航のテレメータシステム、Spot/Flarm、etc)

※新規会員入会促進及び定着方策…入会者が不足しているクラブもあれば、入会が活発なクラブもある。また、入会してクラブ員として継続してくれるためにはどのような取り組みを行って行けばよいかはどのクラブも頭を悩ませている

#### (3) 講習会情報の提供（整備、教育証明学科、EMFT）（板倉→各地クラブ）

※外部クラブからの参加が促進された、各地のクラブの整備スタッフ養成へ貢献、スピン事故防止への啓蒙に貢献

#### (4) 滑空場の有効利用（SATA・富士川→関宿、板倉）

※地域に必要とされる存在になるために、防災基地、ドクターヘリランデブーポイント、自衛隊不時着場としての利用のアイデアが共有され、関宿でも前向きに検討されている

### 4. 今後取り組むべき課題の抽出（あるいは、重要課題だが実施や実現が難しい課題）

#### (1) 航空局への働きかけ（法申請の簡素化等…登録している練習生が全国どこでも追加申請なしに練習飛行できる、など）

#### (2) 民間、公的助成金等に関する情報の共有化を通して、各地での実績に結び付くように支援

#### (3) クラブミーティング参加団体の拡大、ネットワーク化